

「いじめ」の原因と解決策について

～大和思想を広めれば、「いじめ」はなくなる～

講師 伊藤 豪

今、「いじめ」が大きな問題として捉えられています

○文部科学省の「問題行動調査」で、2015年度に全国の小中高校等が認知した「いじめ」の件数は、22万4540件（1985年度の調査開始以来最多。365日で割ると、一日約615件）。

○国立教育政策研究所による「いじめ」追跡調査6の結果によれば、暴力を伴わないいじめ（仲間はずれ・無視・陰口）について、小学校4年生から中学校3年生までの6年間で、被害経験を全く持たなかった児童生徒は1割程度、加害経験を全く持たなかった児童生徒も1割程度であり、多くの児童生徒が入れ替わり被害や加害を経験している。

○平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で、道徳教育が、「特別の教科 道徳」として、新たに実施されるようになった。

○2013年9月から、「いじめ」防止対策推進法（平成25年法律第71号）が施行されました

～「いじめ」防止対策推進法（平成25年法律第71号） 文部科学省のホームページより～

（国の責務）

第五条 国は、第三条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、「いじめ」の防止等のための対策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第六条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、「いじめ」の防止等のための対策について、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(学校の設置者の責務)

第七条 学校の設置者は、基本理念にのっとり、その設置する学校における「いじめ」の防止等のために必要な措置を講ずる責務を有する。

(学校及び学校の教職員の責務)

第八条 学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、当該学校に在籍する児童等の保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体で「いじめ」の防止及び早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童等が「いじめ」を受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。

(保護者の責務等)

第九条 保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、その保護する児童等が「いじめ」を行うことのないよう、当該児童等に対し、規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努めるものとする。

2 保護者は、その保護する児童等が「いじめ」を受けた場合には、適切に当該児童等を「いじめ」から保護するものとする。

3 保護者は、国、地方公共団体、学校の設置者及びその設置する学校が講ずる「いじめ」の防止等のための措置に協力するよう努めるものとする。

4 第一項の規定は、家庭教育の自主性が尊重されるべきことに変更を加えるものと解してはならず、また、前三項の規定は、「いじめ」の防止等に関する学校の設置者及びその設置する学校の責任を軽減するものと解してはならない。

いじめの防止等のための基本的な方針 平成25年10月11日 文部科学大臣決定（最終改定 平成29年3月14日） ～文部科学省のホームページより～

「いじめ」の問題点とは

～「いじめ」の何が問題か？～

「いじめ」を受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害する

「いじめ」を受けた児童の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与える

「いじめ」を受けた児童の生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがある

「いじめ」をする児童も、幸福を感じられなくなる

○「いじめること」を「悪いこと」と認識していない人の集団にあつては、自分が、いつ「いじめられる側」になるか分からないので、「いじめ」をする集団の中にいると、常にその緊張感を持ち続けることになり、精神的に落ち着くことができなくなる

○「いじめること」を「悪いこと」と認識しなくなると、つまり、それを普通のこととする価値観や思想を持つようになると、誰と接するときでも、自分が「いじめられる側」にならないように警戒するようになるので、いい人間関係を築くことができなくなる

○「いじめ」をする人は、本質的に嫌われているので、一時的には仲間が多くいるように思っても、最終的には孤独になる

「いじめ」があるのが当然の世の中では、全ての人が幸福を感じられなくなる

「いじめ」が起こる根本的な原因

「いじめ」が起こる根本的な原因

「いじめ」をする人が、『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想(考え)』を持っていないから。

※「思想」と「その思想を持っている人の行動」と「その行動の結果起こること」の関連性から、そう言える。

(大和思想 一章 「思想」と「その思想を持っている人の行動」と「その行動の結果起こること」の関連性について を参照 <http://kyozon.jp/yamato.towa.html>)

「いじめ」が起こる、その他の原因

○自己肯定感が低い

※自己肯定感＝「自分は認められている」「自分は愛されている」「自分には価値がある」「自分は大切な存在だ」等の自分を肯定的に捉える感覚のこと。

○精神的ストレスを抱えている

「いじめ」を完全になくすための解決策

「いじめ」を完全になくすための解決策

○全ての児童、生徒を『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想(考え)』を持った人間に育てる

○全ての児童、生徒を『人間関係をいい状態にするために必要な能力』を身に付けた人間に育てる

※「いじめ」を完全になくすためには、「いじめは良くない」と教えるだけでは不十分。

全ての児童、生徒を、「どのような状況においても『いじめ』をしない人間」に育てる必要がある。

つまり、全ての児童、生徒を、『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想(考え)を持った人間』『人間関係をいい状態にするために必要な能力』を身に付けた人間に育てる必要がある。

大和思想について

～大和思想を広めれば、「いじめ」はなくなる～

○「大和思想」とは、『世の中の全ての人々が、自ら率先して、普段自分が関わっている全体をまとめること』によって、『共存共栄の世の中』を実現させ、世の中の全ての人と共に『幸福』になる」という「思想」です。

○世の中の全ての人々が、自ら率先して、普段自分が関わっている「全体（集団、組織）」をまとめる（「共存共栄の世の中を維持している状態」にする）。

そうすることによって、「共存共栄の世の中」が実現し、維持される。
また、全ての人々の「生き方」が「価値ある生き方」になる。

そして、「共存共栄の世の中」が実現し、維持され、全ての人々の「生き方」が「価値ある生き方」になることによって、世の中の全ての人々が「幸福」になる。

これが「大和思想の理論」です。

○大和思想における「いいこと（正しいこと）」と「悪いこと（間違っていること）」

「いいこと（正しいこと）」＝「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を維持、つくりだす行為」

「悪いこと（間違っていること）」＝「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を乱す行為」

この「いいこと（正しいこと）」だけを行なって生きていく。

○大和思想における「人間関係のルール」

相手を「尊重」する ※ここで言う「相手を『尊重』する」とは、「相手を『尊い存在』

『価値ある存在』として大切にする」という意味です。

常に「気遣い」をする

「年長者」は「年少者」をいたわり、導く 「年少者」は「年長者」に素直に従う

男女は互いに「思いやり」を持って接する

「親」は「子」をしっかり育てる 「子」は「親」をしっかり養う

「老人」を敬う

全ての人、誰と接するときでも、常に、この「人間関係のルール」に従っていれば、「いじめ」は起こらない

○「大和思想を实践する人」のあり方（「共存共栄の世の中」における「人間」のあり方）

常に、自ら率先して、普段自分が関わっている「全体」をまとめている

常に、あらゆる「恩恵」に心から「感謝」している

常に、自分の「運命」を受け入れている

常に、「共存共栄の世の中を維持、つくりだす物事」と「共存共栄の世の中を乱す物事」を見分けている

「論理的思考能力」を持っている

「優先順位が一番」を「世の中全体」にしている（自己犠牲の精神を持っている）

「謙譲の精神」を持っている

「優しさ」と「厳しさ」を持っている

「勇気」と「精神的強さ」を持っている

常に「平常心」を保っている

常に「向上心」を持っている

常に「真剣さ」を持っている

常に「健康」を維持している

全ての児童、生徒をこのような人間に育てれば、「いじめ」は完全になくなる。

だから、大和思想を広めれば「いじめ」は完全になくすると言っている。

自己肯定感が低い原因と解決策

※自己肯定感＝「自分は認められている」「自分は愛されている」「自分には価値がある」「自分は大切な存在だ」等の自分を肯定的に捉える感覚のこと。

原因：正しい価値観を持っていないから（比較する考え、勝ち負けにこだわる考え等を持っている）

解決策：正しい価値観を持つように教育する

「大和思想」における「人間の存在価値」は、『共存共栄の世の中』を維持、つくりだして生きる」ところにある。

つまり、「家族」「地域社会」「友人の集まり」「学校」「会社」「国家」「世界」等の、普段自分が関わっている「全体」において、『自ら率先して、その全体をまとめるための働きかけ（その全体を共存共栄の世の中を維持している状態にするための働きかけ）』をして生き

る」ところにある。

このような価値観を持ち、常にそのような生き方をしていれば、誰でも、一生、自分に価値を見出すことができる。

精神的ストレスの原因と解決策

主な原因：運命を受け入れる感覚を持っていないから

解決策：運命を受け入れる感覚を持つように教育する

「家庭教育」をしっかり行なう、「学校教育」をしっかり行なう、「メディアのあり方」を正す

「いじめ」を完全になくすためには、全ての児童、生徒を「『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持った人間」「『人間関係をいい状態にするために必要な能力』を身に付けた人間」に育てる必要があるが、そのためには、「家庭教育」をしっかり行なうこと、「学校教育」をしっかり行なうこと、「メディアのあり方」を正すことが必要。

「いじめ」が起こる根本的な原因は、「いじめ」をする人が「『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持っていないから。

彼らは、なぜ、そのような思想（考え）を持っていないのか？

それは、彼らは、『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持つに至る教育を、十分に受けていないから。

「家庭教育」をしっかり行なう

人間は、成長の過程で、周囲から様々な影響を受けて、何かしらの思想を持つようになるが、特に、親から強い影響を受けると言われている。

子供が成人した後に持っている思想、考え方、価値観、趣向等の多くは、両親から強く影響を受けていると言われている。

子供に対する親の影響力は非常に強いので、学校で、子供が『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持つように、また『人間関係をいい状態にする』ために必要な能力が身に付くように教育しても、家庭でそれを否定することを教えたり、親が、それに反する行動をしたりしていたら、子供は、そのような人間になるのが難しくなる。

逆に、親が、自分の子供に、『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持つように、『人間関係をいい状態にする』ために必要な能力が身に付くように教育すれば、子供がそのような人間に育つ可能性は高まる。

「学校教育」をしっかり行なう

日本の場合、基本的には、全ての国民が6歳から15歳までの間、義務教育によって学校に通うので、学校で、そのような教育をすることは、全ての子供を『人間関係をいい状態にすることを当然のこととする思想（考え）』を持った人間』『人間関係をいい状態にするために必要な能力』を身に付けた人間に育てる上で非常に有効。

「メディアのあり方」を正す

※ここで言う『メディアのあり方』を正すとは、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、本、インターネット、映画等、一般に広く普及している情報伝達媒体からは、『いじめをする人間』に導く情報は流さず、『人間関係をいい状態（互いの尊厳が保たれている状態）にすることを当然のこととする思想（考え）を持った人間』に導く情報をたくさん流すようにするということです。

現代は、ほとんど全ての人が、毎日、何らかのメディアに接し、そこから情報を得ていますが、全ての人には、意識していなくても、それらの情報から、何らかの影響を受けています。

例えば、テレビで、ハンバーガーをおいしそうに食べているのを見ると、食欲が湧いてきたり、快適に格好よく自動車を運転しているのを見ると、自分も車が欲しくなったり、雑誌で有名人の髪型や服装が紹介されているのを見ると、同じ髪型や服装をしたくなったり、新聞で、社会問題や悲惨な事件や事故の記事を見ると、悲しくなったり、不安になったりします。

また、意識していなくても、テレビや映画やマンガで表現されている言葉遣いや立ち居振る舞いをするようになっていたり、これが普通、常識、正しいと表現されているのを見て、それが普通、常識、正しいと思うようになっていたりします。

「情報に接する」ということは、「その情報が頭に入る」ということなので、自分の意志とは関係なく、欲が刺激されて湧いてきたり、今まで持っていなかった観点や概念を持つようになっていたり、忘れていた記憶が甦ったりします。

つまり、全ての人には、自覚していなくても、関心がない情報であっても、接した情報から、必ず何らかの影響を受けているのです。

同じ情報でも、人によって受ける影響は違いますし、受ける影響の程度には個人差がありますが、いずれにしても、全ての人には、接した情報から、必ず何らかの影響を受けているのです。

※全ての人には、接する情報から、必ず何らかの影響を受けるが、「悪い影響」だけでなく「いい影響」も同じように受ける。

「自分にできること」をしよう

1、正しい思想を持って生きる

○社会全体のことを考えて生きる（自分さえ良ければいいという考えは持たない）等

2、普段の生活の中で接する人や全体に、率先して正しく接する

○普段接する全ての人に、率先して正しく接する

○普段関わっている全体（集団）を、率先して「いい状態」にする

3、心身ともに健康を保つ

○自分が受けている全ての恩恵に、心から感謝する

○自分の身に起こる全ての出来事を、運命として受け入れる

○暴飲暴食をせず、体にいい物を食べる

○適度に運動をする

大和思想とは

～大和思想 一章から抜粋～

「大和思想」とは、『世の中の全ての人、自ら率先して、普段自分が関わっている全体をまとめること』によって、『共存共栄の世の中』を実現させ、世の中の全ての人と共に『幸福』になる」という「思想」です。

世の中の全ての人「幸福」を求めています。

ですから、人間は、「自分一人が『幸福』になること」を考えるのではなく、「世の中の全ての人と共に『幸福』になること」を考えるべきだと言えます。

また、「大和思想」では、『世の中の全ての人と共に幸福になる』ためには、世の中は、『共存共栄の世の中』である必要がある」と考えます。

ここで言う「共存共栄の世の中」とは、「人間」「動物」「植物」等、『世の中に存在する全ての生物』が共に生き、共に栄える世の中」のことです。

また、それは、『世の中に存在する全ての生物』の『尊厳』が保たれている世の中（全ての生物が、『価値ある存在』『尊い存在』として、認められ、大切にされている世の中）」のことです。

人間が「幸福」になるためには、『自分の尊厳が保たれていること』によって得られる『精神的充足、安定』が必要不可欠ですが、このような世の中であれば、世の中の全ての人「尊厳」は、常に保たれています。

ですから、世の中が「共存共栄の世の中」であれば、世の中の全ての人、常に「幸福」を感じることができます。

また、「大和思想」では、『共存共栄の世の中を実現させ、維持する』ためには、世の中の全ての人、自ら率先して、『普段自分が関わっている全体（集団、組織）をまとめる（共

存共栄の世の中を維持している状態にする)』必要がある」と考えます。

全ての人、毎日、「家族」「地域社会」「友人の集まり」「学校」「会社」「国家」「世界」等、様々な「全体（集団、組織）」と関わっていますが、全ての人が、それらの「全体」にあって、ただ「なんとなく」過ごすのではなく、常に、「『その全体をまとめる』ための働きかけ（『その全体を共存共栄の世の中を維持している状態にする』ための働きかけ）」をしていけば、「効率良く『共存共栄の世の中』を実現させ、維持すること」ができます。

また、人間が「幸福」になるためには、「自分の『尊厳』を保つ（『自分が価値ある存在、尊い存在として、認められ、大切にされている状況』を保つ）」必要がありますが、「大和思想」では、「『自分の尊厳を保つ』ためには、常に、自ら率先して、『普段自分が関わっている全体をまとめるための働きかけ（共存共栄の世の中を維持している状態にするための働きかけ）』をして生きる必要がある」と考えます。

どれだけ「自分の『尊厳』を保ちたい（『自分が価値ある存在、尊い存在として、認められ、大切にされている状況』を保ちたい）」と思っても、実際の「生き方」が「価値のない生き方」であったら、誰も、自分のことを「価値ある存在」「尊い存在」として認めてくれません。

「自分の『尊厳』を保つ」ためには、「自分の『尊厳』を保ちたい」と思うだけでなく、実際に「価値ある生き方」をする必要があるのです。

「常に、自ら率先して、『普段自分が関わっている全体をまとめるための働きかけ（共存共栄の世の中を維持している状態にするための働きかけ）』をして生きる」というのは、世の中の全ての人の「幸福」につながる「価値ある生き方」です。

ですから、常に、そのような「生き方」をしていけば、「自分の『尊厳』を保つこと（『自分が価値ある存在、尊い存在として、認められ、大切にされている状況』を保つこと）」ができるのです。

世の中の全ての人、自ら率先して、普段自分が関わっている「全体（集団、組織）」をまとめる（「共存共栄の世の中を維持している状態」にする）。

そうすることによって、「共存共栄の世の中」が実現し、維持される。

また、全ての人の「生き方」が「価値ある生き方」になる。

そして、「共存共栄の世の中」が実現し、維持され、全ての人の「生き方」が「価値ある生き方」になることによって、世の中の全ての人々が「幸福」になる。

これが「大和思想の理論」なのです。

ですから、世の中の全ての人々が「大和思想」を持って（『大和思想の理論』に則って）生きれば、世の中の全ての人々が「幸福」になれるのです。

<参考>

共存共栄研究センター <http://kyozon.jp/>

大和思想 <http://kyozon.jp/yamato.towa.html>

いじめ問題について ～いじめの「原因」と「解決策」についての考察～
<http://kyozon.jp/kyozon.center.katsudou.html>